

隠岐のスゲ属植物

岡 本 香

The *Carex* species of Oki

Kaori OKAMOTO

はじめに

島根県内の国立公園として、日本海の荒波で、特異な自然美を誇る隠岐は、島根半島の東北の海上にあり、島前（西の島・中の島・知夫里島）と島後からなる4つの住民島と180余の小島を含む群島である。地質は白頭火山帯に属し、アルカリ火山岩系だといわれて、島の周囲は、粗面玄武岩の海蝕崖が各所にみられる。気候は対馬海流の影響をうけて、寒暖ともに比較的温和で、平年の月平均気温が3°Cを下らず、8月でも25°Cを上らない。また歴史的にも有名な島であり、幾多の文化財と行事が残されている。近年、隠岐は学術上極めて興味深い群島といわれ、観光的にも開発されつつある。筆者は日本産スゲ属植物の分類学的研究の一環として、1967年7月下旬、この群島のスゲ属植物を調査した。本報では、調査結果の概要にとどめ、その詳細については後日報告する。稿を起すにあたり、当調査に御協力下さった本学の学生世良滋敏君や地元の田畑諸氏に感謝する。

隠岐地方の植物景観

隠岐は気候が比較的温和であるため、植物では暖地性のカヤラン・クスノキ・シイ・タブノキ・ハマビワ・フウラン・ムギランなどや寒地性のイチイ・クロベ・ハシドイ・ハマナスなど、また高山性のイワカガミ・シャクナゲなどが生育する。

樹林では主にアカガシ・アカマツ・クスノキ・クロマツ・シイ・シラカシ・スギなどが著しく、島後には天然記念物に指定されている八百杉・岩倉杉などがある。この島の人工造林はアカマツ・アスナロ・クロマツ・スギ・ヒノキなどであるが、筆者が調査した地域で、アカマツ林は島後だけに生育していた。隠岐特産の植物では、オオバアザミ・オキタンポポ・オキノアブラギク・シロバナオキタンポポ・ツバメウツギなどが知られている。次に主な調査地域の植物相について述べる。

(西の島)

この島は後醍醐天皇の史跡として、黒木御所などがある。また高崎山(434.5 m)・焼火山(451.7 m)などや男性的な絶景の国賀は雄大な海蝕崖であって、名勝天然記念物の指定地となっている。その頂上一帯は草原で、牧畑もみられる。

(i) 国賀付近の植物

この地域は広々とした草原地帯で、放牧地となっている。草本層でイノコズチ・オオバコ・キ

ソエノコロ・キンミズヒキ・クズ・シバ・ススキ・チガヤ・ハマナデシコ・ハマヒルガオ・ワラビなど、低木層でイヌツゲ・タラノキ・テリハノイバラ・ナツグミ・ヌルデ・マルバグミ・ヤマハギなど、高木層でアカメガシワ・クロマツ・スギなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・シバスゲ・ジュズスゲ・ヒカゲスゲの4種を採集した。

(ii) 高崎山付近の植物

この地域はクロマツ林がよく発達している。草本層でエノコログサ・キキョウ・ススキ・チカラシバ・ツワブキ・ノキシノブ・メイシバ・ヤブガラシ・ヤブマメなど、低木層でサルトリイバラ・ヌルデ・ヒサカキ・マルバグミ・マルバハギなど、高木層でアカメガシワ・クロマツ・ネムノキなどが生育している。スゲ類ではヒカゲスゲ・ヒメカンスゲの2種を採集した。

(iii) 焼火山付近の植物

この地域はスギ林の発達が著しい。草本層でクズ・サジガンクビソウ・シシガシラ・センニンソウ・ノキシノブ・ヒルガオ・ホタルブクロ・ヤマカモジグサなど、低木層でサルトリイバラ・トベラ・ヌルデ・ヒサカキ・ヤブツバキ・ヤマツツジ・ヤマハギなど、高木層でクスノキ・クロマツ・スギなどが生育している。スゲ類ではナキリスゲ・ヒゴクサ・ヒメカンスゲ・マスクサの4種を採集した。

(中の島)

この島は後鳥羽上皇の旧跡や隠岐神社があり、桜の並木が隠岐随一といわれている。また展望によい家督山(246.3m)や伝説で有名な寺跡のある金光寺山(160m)などがあり、菱浦港外には、粗面玄武岩の海蝕による奇岩の三郎岩もある。

(i) 菱浦港付近の植物

この地域は人家が多い。草本層でイヌドクサ・イヌビエ・エノコログサ・ウバユリ・オオバコ・オトギリソウ・カラムシ・カワラヨモギ・キンミズヒキ・スイバ・チドメグサ・ツユクサ・ツワブキ・トボシガラ・ハマヒルガオ・ハマヨモギ・ヤブラン・ヨシ・ヨメナなど、低木層でイヌビワ・ウルシ・チヤ・テリハノイバラ・トベラ・ヌルデ・ネズミモチ・ハマゴウ・ハマヒサカキ・ヒメヤシャブシ・マサキ・マルバハギ・ヤブニッケイなど、高木層でアカメガシワ・イチョウ・エノキ・クスノキ・クロマツ・スギ・ネムノキ・ハマビワ・ヒムロなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・ジュズスゲ・ハマアオスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの6種を採集した。

(ii) 家督山の植物

この地域はクロマツ林が著しい。草本層でエノコログサ・オカトラノオ・オニヤブソテツ・クズ・サジガンクビソウ・シシガシラ・ススキ・タチシノブ・チカラシバ・ツワブキ・ナデシコ・ヒルガオ・ホタルブクロ・ヨモギ・ワラビなど、低木層でガクアジサイ・キズタ・サルトリイバラ・ジャケツイバラ・ナツグミ・ヌルデ・ノイバラ・ヤマハギなど、高木層でアスナロ・ウラジロガシ・ウルシ・ガマズミ・クスノキ・クロマツ・サカキ・スギ・ネムノキなどが生育している。

スゲ類ではアオスゲ・ジュズスゲ・ナキリスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの6種を採集した。

(iii) 金光寺山の植物

この地域はクロマツ林のほかにスギ林もよく発達している。草本層でオオバコ・ウツボグサ・ガガイモ・カラスウリ・クズ・シシガシラ・ススキ・タチシノブ・タンポポ・チジミザサ・ツワブキ・トダシバ・ヒルガオ・ヤマアザミ・ヨメナ・ヨモギ・ワラビなど、低木層でガマズミ・カヤ・キズタ・サルトリイバラ・テイカカズラ・ナツグミ・ヌルデ・ムラサキシキブなど、高木層でアスナロ・イスノキ・イヌマキ・クロマツ・サワラ・スギ・ヤマモミジなどが生育している。スゲ類ではジュズスゲ・シラスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの5種を採集した。

(知夫里島)

この島は島前南端の島で、隠岐の代表的な民謡どっさり節の発祥地でもあり、名勝天然記念物の指定地である西海岸の赤壁や隠岐の輪転牧畑がみられるアカハゲ山(324.6m)などがある。

(i) 古海海岸付近の植物

この地域は海岸というより山に近く、周囲はほとんどクロマツ林である。草本層でイタチシダ・イタドリ・オニシバ・オニヤブソテツ・オニヤブマオ・ツワブキ・ドクダミ・ハマウド・ハマエンドウ・ハマナデシコ・ハマヒルガオ・ハマボス・ハマヨモギなど、低木層でテリハノイバラ・トベラ・ハマゴウ・ハマヒサカキ・ヒメユズリハ・ヤブツバキなど、高木層でアカメガシワ・クロマツ・シイ・スギ・ハマビワなどが生育している。スゲ類ではハマアオスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゲスゲ・ヒメカンスゲの4種を採集した。

(ii) アカハゲ山の山麓付近の植物

この地域は主として広葉樹林が著しい。草本層でイノモトソウ・イタドリ・カラムシ・カナワラビ・シケチシダ・シシガシラ・セキショウ・タチシノブ・ツワブキ・ドクダミ・ノアザミ・ハスノハカズラ・ワラビなど、低木層でコナラ・サルトリイバラ・ナツグミ・ヌルデ・ビナンカズラ・ヤシャブシ・ヤマハギなど、高木層でアカメガシワ・スギ・タブノキ・ネムノキ・ハマビワ・ヤブツバキなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・ジュズスゲ・ナキリスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの6種を採集した。

(iii) アカハゲ山の頂上付近の植物

この地域は放牧地で、その周辺に樹林がみられ、広々とした草原である。草本層でオオバコ・ギシギシ・シバ・ススキ・センニンソウ・ノアザミ・ヒメクズ・ヨモギ・ワラビなど、低木層でイヌツゲ・ウツギ・クサギ・サルトリイバラ・サワフタギ・ノイバラ・マルバグミ・ヤマハギなど、高木層でクロマツ・ネムノキなどが生育している。スゲ類ではシバスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの4種を採集した。

(島 後)

古墳や旧跡の多いこの島は、隠岐群島の東北にある一番大きな島で、円形の古い火山島である。

主に山地が多く、平地の少ない地域で大峰山 (507.6 m)・時張山 (521.6 m)・鷲ヶ山 (563 m)・横尾山 (572.8 m)・葛尾山 (597.6 m)・大満寺山 (607.7 m) などがある。

(i) 大満寺山・鷲ヶ山付近の植物

この地域は隠岐唯一の山岳地帯を形成する一部で、天然記念物指定の広葉樹林やうっそうと茂る杉の天然林、またシャクナゲの群落などがみられる。草本層でアキノタムラソウ・イタドリ・ウバユリ・オイシバ・オオバアザミ・オオバノイノモトソウ・オトギリソウ・カモジグサ・キンエノコロ・キンミズヒキ・シシガシラ・ジュウモンジシダ・ススキ・スズメノヤリ・ゼンマイ・タチシノブ・チガヤ・チジミザサ・ツワブキ・トコロ・トラノオシダ・ノキシノブ・メイシバ・ヤマアザミ・ヤブソテツ・ヤブレガサ・ワレモコウ・ワラビなど、低木層でイチイ・カヤ・キイチゴ・クロモジ・サンショウ・サルトリイバラ・シャクナゲ・タラノキ・ヌルデ・ノイバラ・ミツバツツジ・ムラサキシキブ・ヤマボウシ・ヤマハギなど、高木層でアカガシ・アカメガシワ・イタジイ・ウラジロガシ・クスノキ・クリ・クロマツ・ケヤキ・コナラ・サワグルミ・スギ・ネムノキ・ヒノキ・ミズナラ・ヤマモミジなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・オクノカンスゲ・ショウジョウスゲ・ジュズスゲ・ナキリスゲ・ニシノホンモンジスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサ・ミヤマカンスゲの10種を採集した。

(ii) 水若酢神社付近の植物

この地域はクロマツ林が多く、特に老松が著しい。草本層でアカツメクサ・イタドリ・イノモトソウ・カタバミ・クサイ・ドクダミ・チドメグサ・マメズタ・ヨモギ・ヤハズソウなど、低木層でトベラ・ナワシログミ・ヌルデ・ヒサカキ・ヤマフジなど、高木層でウラジロガシ・クスノキ・クロマツ・ケヤキ・サクラ・シイ・スギなどが生育している。スゲ類ではハマアオスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの3種を採集した。

(iii) 国分寺付近の植物

この地域は人家も多く、クロマツ林が多い。草本層でイヌシダ・イノモトソウ・シシガシラ・スズメノヤリ・スベリヒユ・タチシノブ・ヨシ・ヨメナ・ヨモギなど、低木層でタカノツメ・タラノキ・ナワシログミ・ヌルデ・ヤマハギ・ヤマフジなど、高木層でイタヤカエデ・クロマツ・シイ・スギ・モミ・ヤマモミジなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの4種を採集した。

(iv) 西郷周辺の植物

この地域はほとんどクロマツ林である。草本層でイタドリ・イヌドクサ・イノモトソウ・オオバコ・オニヤブマオ・クズ・ススキ・スズメノヒエ・ドクダミ・ハマナデシコ・ハマヒルガオ・ハマヨモギなど、低木層でキズタ・クサギ・サルトリイバラ・テリハノイバラ・トベラ・ナツグミ・ヌルデ・ヒサカキ・マサキ・ヤシャブシなど、高木層でアスナロ・イタジイ・クスノキ・クロマツ・スギ・ネムノキなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・ハマアオスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサの4種を採集した。

採集したスゲ類の目録

スゲ類は、すでに花期を過ぎていたが、15種を採集し、確認することができた。それらは次の通りである。

Carex blepharicarpa Fr. (ショウジョウスゲ), *C. boottiana* Hook. et Arn. (ヒゲスゲ), *C. conica* Boott (ヒメカンスゲ), *C. doniana* Spreng. (シラスゲ), *C. fibrillosa* Fr. et Sav. (ハマアオスゲ), *C. foliosissima* Fr. Schm. (オクノカンスゲ), *C. gibba* Wahlenb. (マスクサ), *C. ischnostachya* Steud. (ジュズスゲ), *C. japonica* Thunb. (ヒゴクサ), *C. lanceolata* Boott (ヒカゲスゲ), *C. leucochlora* Bunge (アオスゲ), *C. multifolia* Ohwi (ミヤマカンスゲ), *C. nakiri* Ohwi (ナキリスゲ), *C. nervata* Fr. et Sav. (シバスゲ), *C. stenostachys* Fr. et Sav. (ニシノホンモンジスゲ)。

スゲ類の生育状況

隠岐地方のスゲ類の生育状況は次の通りである。

アオスゲ： 人家近くの路傍や石垣などのひなたに生育していた。

オクノカンスゲ： 大満寺山で、山頂付近の林床のややひかげに生育していた。

シバスゲ： 隠岐の牧畑である放牧地のひなたに生育していた。

ジュズスゲ： 山地路傍や林縁草地のひなたに生育していた。

ショウジョウスゲ： 大満寺山で、溪畔のひなたに生育していた。

シラスゲ： 金光寺山で、頂上付近の林縁草地のひかげに生育していた。

ナキリスゲ： 特にスギ林の林縁草地のひかげに生育していた。

ニシノホンモンジスゲ： 大満寺山で、路傍草地のひなたに生育していた。

ハマアオスゲ： 主として海岸砂地や崖上のややひかげに生育するが、特に海岸より約 5 km 以上はなれた水若酢神社境内のクロマツ林の林床でも生育していた。

ヒカゲスゲ： 林縁から林床にわたって、ややひかげに生育していた。

ヒゲスゲ： 知夫里島の海岸で、崖上の草地のややひかげに生育していた。

ヒゴクサ： 西の島で、スギ林の林縁草地のひかげに生育していた。

ヒメカンスゲ： 林床のややひかげに生育していた。

マスクサ： 人家近くの路傍草地のひかげに生育していた。

ミヤマカンスゲ： 大満寺山で、林縁や溪畔のやや湿潤な草地に生育していた。

以上の生育状況から、これらのスゲ類の生育環境を、次の6群に分けることができた。

- (1) 溪畔生——溪畔の湿潤な斜面岩上などに生育するもので、ショウジョウスゲ・ミヤマカンスゲなどがある。
- (2) 路傍生——路傍草地や石垣などに生育するもので、アオスゲ・ジュズスゲ・ニシノホンモンジスゲ・マスクサなどがある。
- (3) 草原生——放牧地などの草原に生育するもので、シバスゲなどがある。
- (4) 林縁生——林縁草地に生育するもので、シラスゲ・ナキリスゲ・ヒゴクサなどがある。

- (5) 林床生——林床内に生育するもので、オクノカンスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲなどがある。
- (6) 砂礫生——海岸の岩礫地や砂地に生育するもので、ハマアオスゲ・ヒゲスゲなどがある。

考 察

隠岐地方のスゲ類については、ほとんど明確な資料がなかったため、このたびの調査には非常に興味を持っていた。隠岐のスゲ類は、主として暖帯から温帯に分布するアオスゲ・シバスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・ヒゴクサ・ナキリスゲ・ニシノホンモンジスゲなどや温帯に分布するオクノカンスゲ・ショウジョウスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゲスゲ・ヒメカンスゲ・マスクサ・ミヤマカンスゲなど、また亜熱帯から暖帯に分布するハマアオスゲなどが生育していた。4つの住民島で、採集されたスゲ類は、アオスゲ・ジュズスゲ・ナキリスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲの5種である。西の島と知夫里島で、採集されたスゲ類は、シバスゲの1種である。中の島・知夫里島と島後で、採集されたスゲ類は、ハマアオスゲの1種である。それぞれの島だけで、採集されたスゲ類は、西の島ではヒゴクサ、中の島ではシラスゲ、知夫里島ではヒゲスゲ、島後ではオクノカンスゲ・ショウジョウスゲ・ニシノホンモンジスゲ・ミヤマカンスゲである。従って、この採集調査で確認したスゲ類15種は、西の島と中の島では8種、知夫里島では9種、島後では11種となる。特に島後では、山岳地帯に生ずるオクノカンスゲ・ミヤマカンスゲなどが採集できたことは、この島がほかの島と比較して、山が深く、山岳地帯を形成していることである。また島根半島の海岸地域に生ずるクロカワズスゲ・コウボウシバ・コウボウムギなどが採集されなかったが、おそらく未調査地域に生育しているように思われる。しかしながら、花期を過ぎていたが、わづか15種のスゲ類を採集し、確認できたことは、今後、この地方のスゲ類のフロラの解明に、よい手がかりとなるでしょう。

結 言

隠岐地方の植物の採集調査は、隠岐群島と呼ばれるように、実際には、散在した島々への交通の不便が、大きな要因となっているから植物景観が保たれて、自然美の魅力と深い印象を与えている。限られた日数の調査で、この地方のフロラの把握は不可能であることを、しばしば感じられた。今回の調査で、特に島後では未調査地が多い。しかし、スゲ類のフロラの手がかりになったことは幸いである。今後の課題として、島根半島のスゲ類と比較検討しながら、未調査地域の調査と海によって隔離された島々におけるスゲ類の生態やこの地方のフロラの解明に努力したい。

参 考 文 献

- 秋山 茂雄 (1955) 極東亜産スゲ属植物
 有馬 茂純 (1968) 山陰
 上原 敬二 (1965) 樹木大図説 I~III

- 大井次三郎 (1965) 日本植物誌
 岡本 香 (1965) 本州西部産スゲ属植物の分類学的研究
 岡本 省吾 (1965) 原色樹木図鑑
 北村 四郎他 (1965) 原色日本植物図鑑 上・中・下
 東京書籍 (1960) 中国の自然
 牧野富太郎 (1966) 牧野新日本植物図鑑
 吉川 純幹 (1957, 1958, 1960) 日本産スゲ属植物図譜 第1～3巻
 和達 清夫 (1960) 日本の気候

Summary

The Oki district situated in Shimane Prefecture has been known as a place of scenic attraction with historic relics. In July 1967, an observation on the distribution of *Carex* species in the Oki district was carried out. As a result, 15 species of *Carex* are recognized and they are classified into six groups from their growing conditions as follows:

1. Stream side (*C. blepharicarpa*, *C. multifolia*, etc.)
 2. Road side (*C. ischnostachya*, *C. leucochlora*, etc.)
 3. Grassland (*C. nervata*, etc.)
 4. Forest side (*C. doniana*, *C. japonica*, etc.)
 5. Forest floor (*C. conica*, *C. foliosissima*, etc.)
 6. Rocky or Sandy place (*C. boottiana*, *C. fibrillosa*, etc.)
-